



 **コベルコシステム株式会社**
KOBELCO SYSTEMS CORPORATION

<http://www.kobelcosys.co.jp/>

本 社：〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 シマブンビル
東京本社：〒141-8688 東京都品川区北品川5丁目9番12号 北品川IONビル

発 行：コベルコシステム株式会社 CSR推進委員会
(事務局 TEL. 078-261-6001 FAX. 078-261-7520)

本誌は、印刷・製本に関して以下のような配慮を行っています

印刷に関する配慮



印刷工程において有害廃液を出さない「水なし印刷」を採用しています。

用紙に関する配慮



森林管理協議会 (Forest Stewardship Council) から認証を受けた適切に管理された森林からの原料を含むFSC認証紙を使用しています。

インクに関する配慮



環境負荷の少ない植物油インクを使用しています。



Corporate Social Responsibility

CSR Report 2015



 **コベルコシステム株式会社**
KOBELCO SYSTEMS CORPORATION

コベルシステムは1987年の設立当初から一貫してステークホルダーの皆様と“ともに”の精神で成長してきました。今年、阪神・淡路大震災から20年の節目になります。神戸の街は未曾有の壊滅的な被害を受けましたが、その震災から20年が経ち、被災者の懸命な努力と、多くの支援者の活動、行政の後押しにより、街は一部の課題を残しながらも復旧・復興してきました。

その間、IT業界においては、インターネット技術の発展、通信技術の進化、コンピュータ処理速度の高速化やメモリの大容量化に伴い、業界全体が大きく成長してきました。そして昨今はCAMSS(クラウド、アナリティクス、モバイル、ソーシャル、セキュリティ)に代表される目覚ましい技術の発展や、IoT(Internet of Things:モノのインターネット。コンピュータなどの情報・通信機器だけではなく、さまざまなモノに通信機能を持たせ、インターネットを介して相互に通信を行い、自動制御や遠隔計測、需要予測を可能にする)と呼ばれる技術が普及することによって、さらに大きな変化が起きようとしています。



これまでの延長線ではなく、新たなビジネスモデルを創造し、破壊的なイノベーションが起きようとしています。ITは、お客様の事業に貢献する直接的な武器として、今後ますます重要性が高まっていくことでしょう。

当社では来たるべき大きな変化をとらえ、次の成長に向けた新中期経営計画「For High-Value 2017」を本年からスタートさせました。人財育成、新たなソリューションやアセットの開発に力を入れて、お客様から信頼されるパートナーとしての評価を高め、さらなる価値の創造を行うという、価値創造のスパイラルを回していきたいと思っております。お客様に評価される価値の創造には、スキルやソリューションだけではなく、それを提供する社員一人ひとりが会社の方針を理解し、行動することが不可欠です。提供するサービスとお届けする社員、それを回すプロセスの三位一体で、初めて“High Value”が実現できるのです。中長期的に会社の目指すべき姿を社員の全員で共有し、それを実現する社員の「行動指針」を“基本行動10”としてまとめ、今後社員に浸透させていきます。

また、当社が属するIT業界では、2015年問題と呼ばれる状況が発生しています。昨今の景気回復に伴う情報システムへの投資拡大や、大規模プロジェクトの開発ピークの重なりにより、IT企業が2015年を中心に人材不足に悩まされている状況のことを指します。メガバンクの新勘定系システム構築やマイナンバー制度システム構築、社会インフラの変化に伴うシステム需要の高まりで人材不足が顕著です。2020年に開催が決まった東京オリンピックも景気浮揚を誘発し、新たなIT開発需要が生まれる可能性が高く、2015年以降もこの問題に悩まされる可能性は高いと予想されています。日本全体を見ても、少子高齢化社会が進み、生産年齢人口が減少することによって人材不足に拍車がかかります。その中で、IT業界はハードな仕事や残業が多いイメージを持たれており、就職先として魅力

の少ない業界と見られがちです。IT企業が必要な要員を確保できなければ、システム構築が遅れ、ユーザー企業の事業活動や社会に大きな影響を及ぼすこととなります。2015年問題はIT企業だけの問題ではなく、社会全体の大きな課題です。IT産業に従事するメンバーが誇りを持って仕事に立ち向かい、若い人が目指したい業界に変えていかなければなりません。当社も、労働環境・人財育成制度を充実させるだけではなく、ITエンジニアの地位向上、IT業界全体の魅力アップに貢献していく必要があります。これにはITスキルのみならず、お客様により近づいて、お客様の業務そのものから理解し、ナレッジを共有して、仕事の仕方を変えていくための活発な議論ができる風土が重要であり、社員がイキイキと働く会社がIT業界のイメージの改革にも貢献できると考えています。コベルシステムがその一端を担えるよう、引き続き社員の意識改革を推進していきます。

お客様を取り巻く環境の変化は激しさを増しています。このような変化の激しいグローバル時代の中では、独自の価値創造と組織や会社を超えたコラボレーションによる“スピード感”と“柔軟性”が強く求められています。激しい変化に果敢に立ち向かうお客様の経営基盤強化に役立てるよう、そして、時代の荒波を切り開いていくお客様の真のパートナーとして、さらに高い価値を提供できるHigh-Value Companyに向け、お客様とともに成長していきたいと考えています。

震災を乗り越えた「決して諦めない心」をITソリューション・サービスにのせて、お客様の夢へのチャレンジに、よりいっそう尽力していく所存です。

代表取締役社長 川瀬 俊治

Contents

CSRの取り組みについて

- 03 「卓越した経営」を目指して
- 05 コベルシステムのCSRの仕組み
- 07 特集 新中期経営計画(2015~2017年)

お客様とともに

- 09 お客様にご満足いただくために
- 10 CS意識のワンランクアップ
- 11 品質向上活動に終わりはない
- 12 セキュリティなくしてビジネスなし
- 13 新たな付加価値を創出するために
- 14 外部からの評価
- 15 お客様事例のご紹介

ビジネスパートナー様とともに

- 17 公正なパートナーシップの維持

社員とともに

- 19 人財育成の仕組み
- 21 社員と組織の絆を深めるために

社会とともに

- 23 地域貢献・社会貢献活動
- 25 環境保護活動

- 26 会社プロフィール/編集後記

【報告対象期間】
2014年1月1日から12月31日の1年間の活動を中心に記載しています。一部につきましては、対象期間以前からの経緯やCSRレポート発行時直近の事項についても記載しています。

「卓越した経営」を目指して

コベルコシステムの経営ビジョン

私たちコベルコシステムは、お客様と「夢」を共有し、確かな知識と卓越した技術によるITソリューション/サービスを通じて、お客様の発展とチャレンジに貢献し続けます。

全社員が共有するビジョンとして、2006年に若手・中堅社員代表30人が検討し、この経営ビジョンを策定しました。お客様の発展とチャレンジに貢献するために、お客様の「こうありたい」という夢を共有し、実現し、お客様に喜んでいただくことが私たちの夢であり、使命であると考えています。

これまで現場の経験で培ってきた優れた品質や高度な技術、それを支える確かな業務知識やIT専門知識、そしてお客様の夢を実現させるために必要な「知恵」を駆使することで、お客様の期待を超えるソリューション/サービスを提供し続けたい。このような想いから、この経営ビジョンが生まれました。

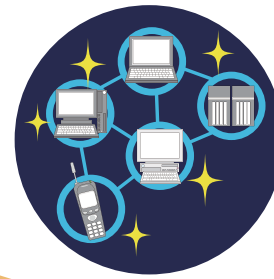
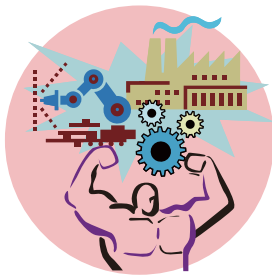
中期経営計画 (Growth2014) の成果

コベルコシステムは「成長への変革」と銘打って、2012年から中期経営計画「Growth 2014」を展開してきました。お客様に新たな付加価値を提供していく5つの領域を『5つの

エンジン』と名づけて事業展開を進めてきました。2014年は中期経営計画最終年度として、以下のような取り組みを積み重ねてきました。

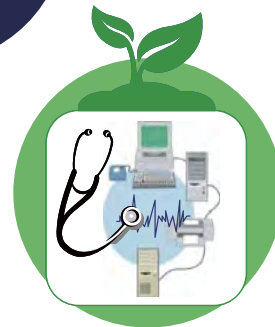
製造業向けハイパフォーマンスITサービス

- お客様の業務変革を支援するための業務分析機能シートの整備
- 短納期・良品率でSAPシステムを導入する「Hi-KORT標準化サービス」の構築
- 設計ビジネスのアセット化とSAP連携ビジネスの推進



システム近代化支援サービス

- Open To Openのシステム近代化をメインターゲットにビジネスを推進
- フォーラム出展を中心に、市場浸透に向けた積極的なプロモーションを実施



価値創出型保守開発サービス

- お客様との定期的な情報交換会、社内定例会開催などによる提案基盤の推進
- ITサービスマネジメントの基礎スキルとなるITIL認定資格取得者を拡大し、企画提案・保守運用サービスの標準化による保守サービスの高度化を推進

クラウドサービス

- 神戸製鋼グループ向けWINK-Cloudのサービス拡大
- SAPサービスのクラウドモデルの提供開始
- クラウドを活用したITアウトソーシングサービスビジネスの推進

グローバル化支援サービス

- 神戸製鋼グループの海外進出を支援するスキームのレベルアップを実施
- SAPビジネスを中心にお客様の海外展開を継続支援

経営品質 4つの基本理念

コベルコシステムでは、常にお客様満足の追求を経営の中心におき、組織プロセスを変革するという「日本経営品質賞」の経営品質向上プログラムの基本的な考え方に沿って活動しています。

経営品質向上プログラムは、「顧客本位」「独自能力」「社員重視」「社会との調和」の4つの基本理念から構成されており、これらすべてを満たすことが卓越した経営に共通した条件とされています。

顧客本位

お客様に信頼される真のパートナー

お客様ごとのニーズに応じて情報システムを構築・提供していくサービス業であり、常に顧客価値を創造していくことが、私たちの使命である。

社員重視

プロフェッショナル人材

挑戦し、学び続ける自律した人材と、お互いを尊重する自由闊達な組織風土が事業を営んでいくための重要な資産である。

独自能力

他社との違い

現場の経験で培ってきた優れた品質・高度な技術、それを支える確かな業務知識やIT専門知識、そしてお客様の夢を実現するための独創的な「知恵」が私たちの財産である。

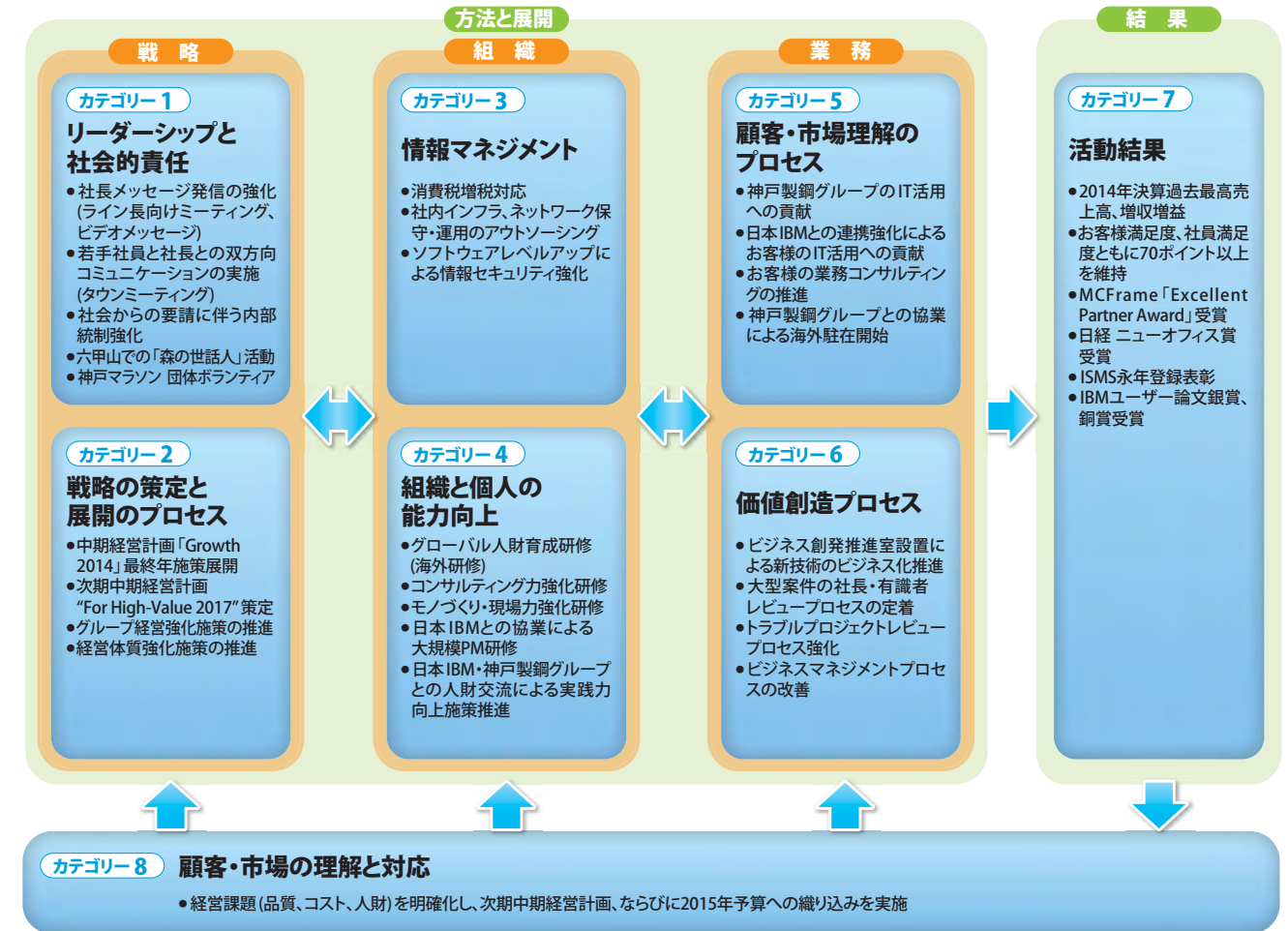
社会との調和

企業倫理の遵守と健全な成長

コンプライアンスを推進し、適切なガバナンスを自律的につくり上げ、社会的な価値観で考え行動し、地域貢献活動にも積極的に参画する企業文化が卓越した企業の証である。

経営品質向上プログラムのフレームワークと2014年の活動成果

組織のプロセスの変革は、下図の8つの視点=カテゴリーで実践し、評価しています。各カテゴリーでの2014年の活動成果を下記フレームワークに示します。



コベルコシステムのCSRの仕組み

CSR推進活動方針・推進体制

- ① ステークホルダーに対する「大切に想う気持ち」に根ざして、CSR活動を推進する。
- ② コベルコシステムの身の丈に合った、かつ、コベルコシステムならではのCSR活動を展開する。
- ③ さまざまな活動への参画を通じて、CSRへの理解を社内に広く浸透させる。

コベルコシステムでは、CSRを、経営を支える大切な取り組みと位置付けており、経営ビジョンを実現するための活動として推進しています。

設立20周年にあたる2007年、社会的責任を果たすためのさまざまな活動を整理・体系化。2009年にはCSR推進委員会を設立し、2010年に「CSR推進活動方針」を策定しました。現在まで、コンプライアンスの強化と情報セキュリティの強化、リスクマネジメント、適正取引の推進、社会貢献活動の充実を目指して活動しています。CSR推進委員会は経営会議の諮問機関として、社長をオーナー、CSR担当役員を委員長とし、各部門から選出されたCSR推進委員

で構成されています。そして、CSR推進委員会が全社のCSR推進活動方針に基づいた重点活動領域の設定、個別テーマのワーキンググループによる活動、社内外へのCSR情報の開示などのコミュニケーション活動を担っています。

2012年4月には、適正取引に関する活動を推進していた「適正取引推進委員会」をCSR推進委員会に統合し、CSR推進活動のコンプライアンス強化の一環として推進する体制「適正取引部会」に再編しました。

また、これらの活動を幅広くステークホルダーの皆様にご理解いただくために、2010年からCSRレポートを発行しています。

ステークホルダーとマテリアリティ

お客様

ITソリューション/サービスを通じてお客様の発展とチャレンジに貢献し続ける

社員

社員の成長と働き甲斐がコベルコシステムの企業発展の原動力である3T(楽しい、短時間、達成感)職場の実現

株主

日本IBM、神戸製鋼所のグループの一員として企業活動を推進する



行政

法令等を正しく理解・遵守し、行政との良好な関係を保つ

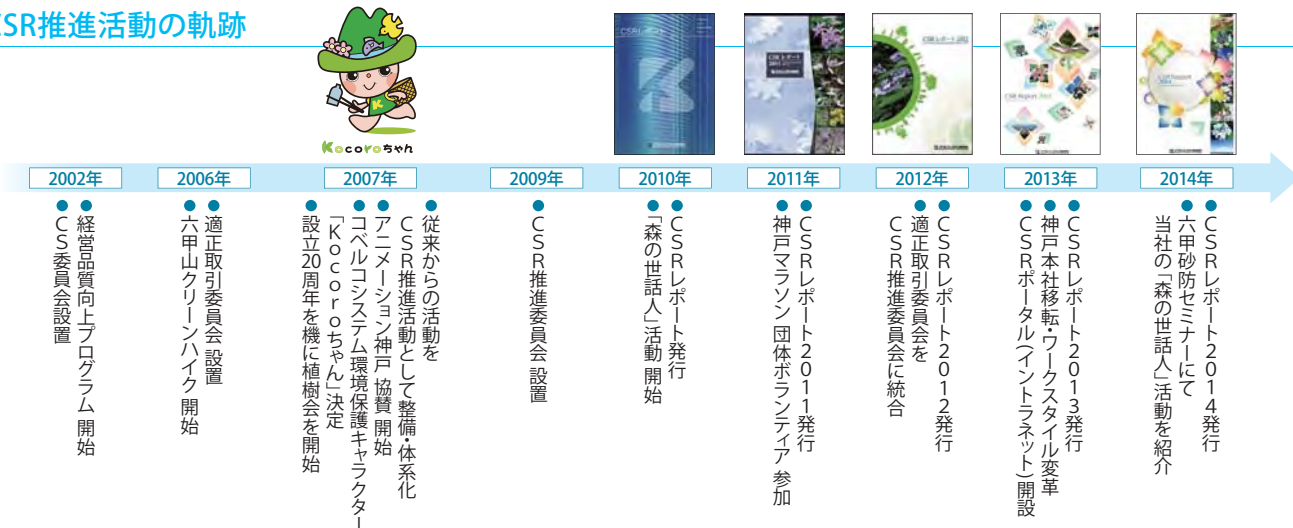
ビジネスパートナー様

ビジネスパートナー様と健全でWin-Winの関係を築く

地域社会

当社の得意とする知識や保有する経営資源に即して、企業市民として社会への貢献を確実に実行する

CSR推進活動の軌跡



ガバナンス推進体制

株主総会を起点とし、取締役会、および経営会議を基盤とする経営管理体制によって運営しています。取締役および執行役員の任期は1年として各年度の経営責任を明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる体制としています。取締役会は、3ヶ月に1回および必要随時開催とし、業務執行の基本となる意思決定や監督を行っています。

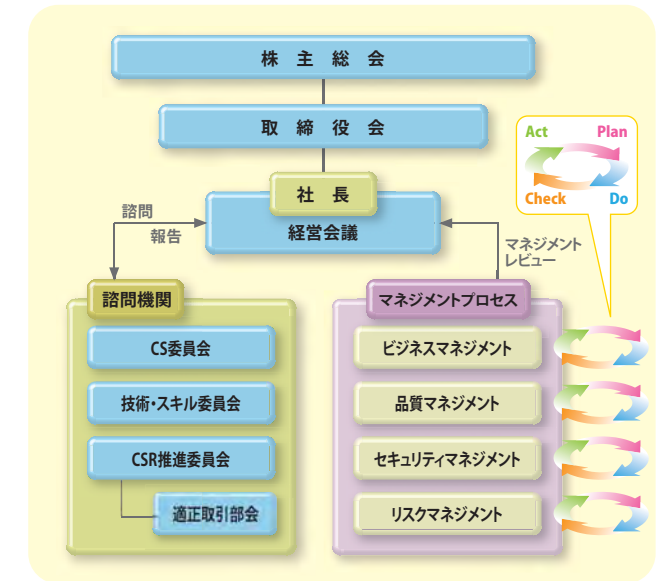
経営会議は、経営戦略や重要施策の策定など、経営上の重要事項を審議・決定します。

コベルコシステムは、米国に本社を置くIBMグループの一員であり、SEC(米国証券取引委員会)の会計基準および米国SOX法に準拠したIBMの内部統制の配下にある会社です。

最高経営責任者(社長)および最高財務責任者(管理部長)は、四半期単位で財務諸表が正確であること、内部統制が健全に機能していることをステークホルダーに宣誓しています。

業務の有効性や効率性、財務諸表の健全性や信頼性、法令遵守

などコベルコシステムの内部統制環境が機能していることを保証するためにSOXテストやモニタリングを実施しています。



コンプライアンス推進活動

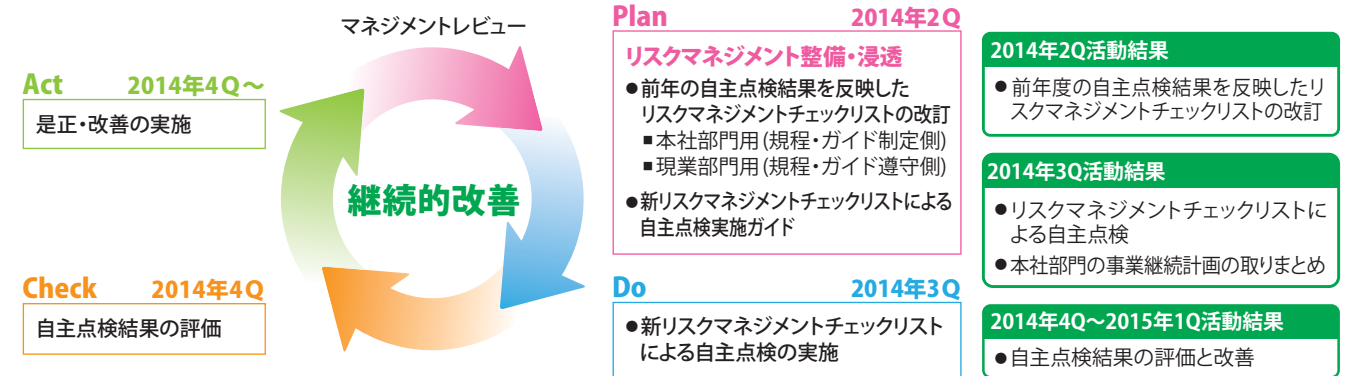
お客様に信頼される真のパートナーになるために、法令などを遵守するのはもちろん、企業倫理に則した行動を取ることが必須です。コベルコシステムでは、企業倫理規程を制定し、社員一人ひとりが行動する際のガイドとしています。

また、企業活動を取り巻く、多様化、複雑化、かつ高度化するリスクに対して、適切に対応することも求められます。このため、コベルコ

システムでは、コンプライアンス推進活動の一環としてリスクマネジメント活動を継続しています。当社のリスクマネジメントは、リスクマネジメントチェックリストを用いた自主点検を中心に取り組んでいます。自主点検結果に基づき、残留リスクへの改善策を策定し、実施するPDCAサイクルを回しています。

2014年度リスクマネジメント推進活動結果

2014年2Q~2015年1Q

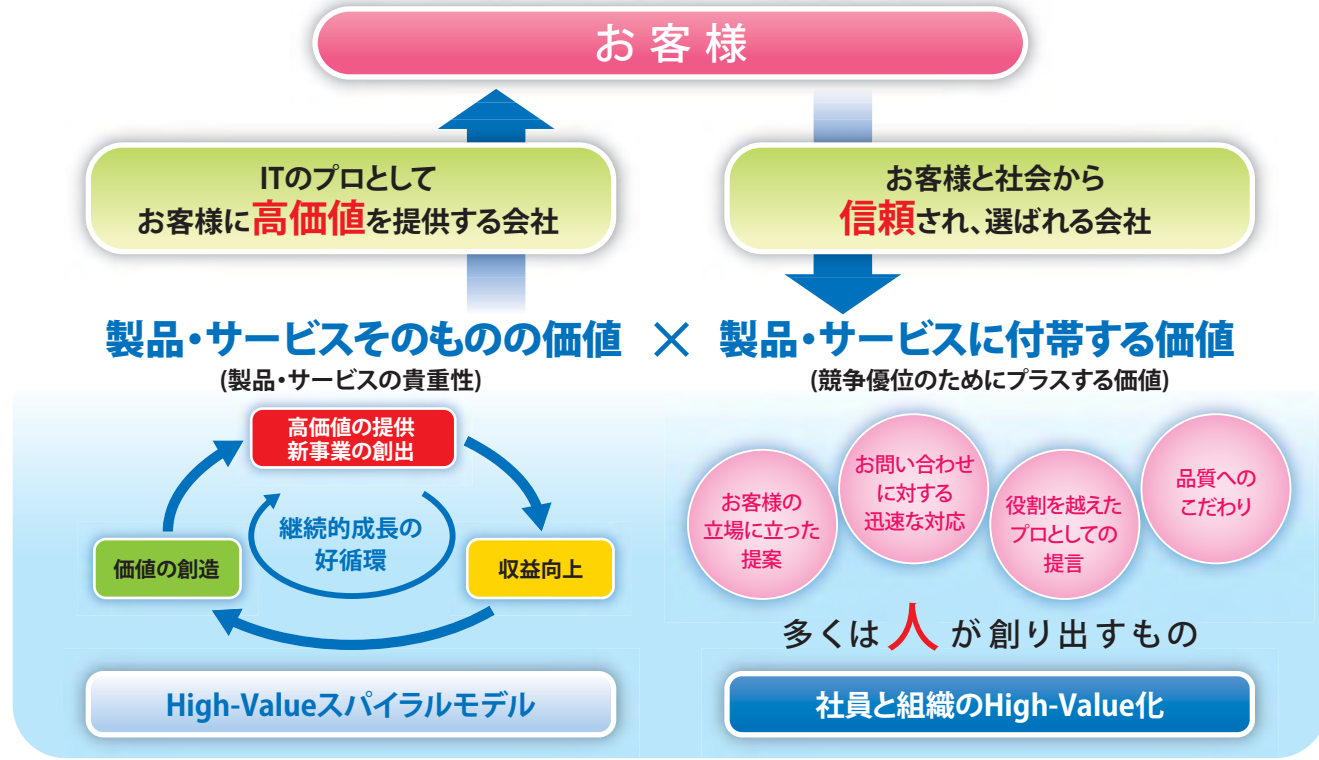


特集 新中期経営計画 (2015~2017年)

コベルシステムの目指す姿

お客様の発展とチャレンジに貢献し続けることがコベルシステムの目指す姿であり、そのためにはITのプロとして高い価値(High-Value)を創造し続けなければなりません。

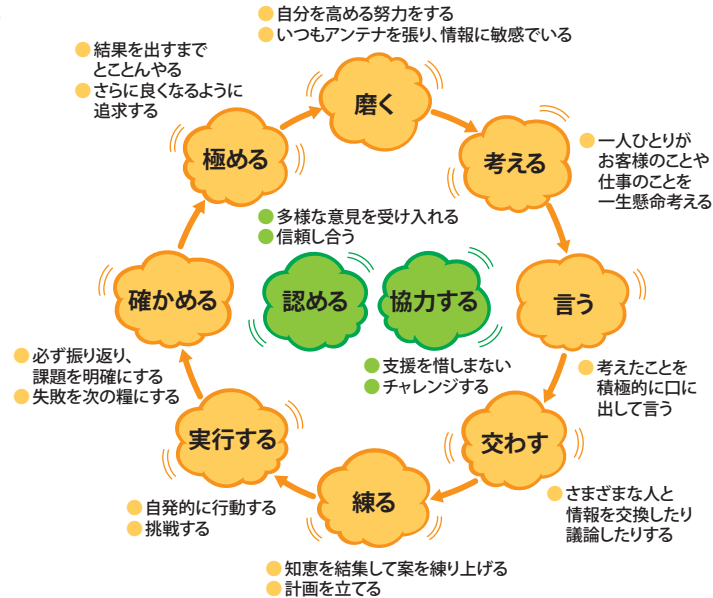
また、コベルシステムが提供するサービスの多くは「人」が創り出すものであり、「人財」のHigh-Value化を目指していきます。



社員と組織をHigh-Value化するための“基本行動10”

“基本行動10”はプロフェッショナル集団を目指すコベルシステムの社員像です。

自己研鑽し、自らが考え、それを積極的に発信し、他の人と情報交換をし、知恵を絞ってプランをつくり、受け身ではなく自らが行動し、その結果をチェックする。そして、さらに良くなるように極めていく。社員一人ひとりが真のプロフェッショナルとしてお互いを認め合い協力し合える自由闊達な組織風土へと変革を推進します。



新中期経営計画 “For High-Value 2017”

お客様から信頼され、選んでいただける会社であり続けるために、今年度、新中期経営計画 “For High-Value 2017” を策定いたしました。

高価値化を実現するビジネスの創発、人財育成、社員の行動変革を促す仕組みづくりに経営資源を集中投下し、「価値の創造⇒高価値の提供⇒収益向上⇒さらなる価値の創造」のスパイラルを造ることにより、お客様に

高価値をご提供するHigh-Value Companyを目指します。



事業戦略

コンサルティングビジネス

海外展開や市場の変化などの環境変化にお客様が柔軟に対応できるよう、製造業に強みを持つコベルシステムのノウハウ、ソリューションを結集し、組織横断で業務改革や改善をシステム導入・構築の前段階からご支援していきます。その中でお客様とのリレーションを築き、パートナーとなることを目指していきます。

中核ビジネス

コベルシステムの中核ビジネスとなる製造業向けハイパフォーマンスITソリューションと老朽化した基幹システムの近代化支援サービスのさらなる高価値化、差別化を推進していきます。具体的には、ERPを核としたコベルシステム独自の製造業向け統合パッケージ「Hi-KORT」に設計や製造実績、顧客管理、経営管理などのソリューションとのデータ連携を実現することで、お客様のハイパフォーマンスの具現化をご支援していきます。また、「Hi-KORT」の機能はさらにグローバル化や先進テクノロジー対応の面で強化し続けています。近代化支援サービスは、これまでの実績で蓄積したアセットを活用し、COBOLやVBなどの資産をJavaにリビルド、リライトするビジネスを推進していきます。生産性を向上させるテンプレートの拡張に取り組みとともにクラウド環境への移行に対応できるメニューの確立、アジャイル開発の採用など市場のニーズに即した対応を行っていきます。

インフラビジネス

神戸製鋼様のIT基盤クラウド化を設計・構築・運用トータルで担い、そこで蓄積したノウハウをアセット化することで一般のお客様へも展開していきます。また、これらの取り組みの中で培った経験を融合させ、クラウド運用診断サービスをメニュー化し、クラウドへの移行支援も推進していきます。さらに、既存インフラサービスと合わせたITインフラ統合運用サービスも推進します。

ストックビジネス

IT運用におけるベストプラクティスをまとめたフレームワークであるITILを活用し、保守・運用を通じて企画提案を実施し、さらなるシステム改善へとつなげるマネジメントサイクルを循環します。最終的には、お客様のIT環境が常に最適な状態に維持されるトータルサービスデザインを目指します。

グローバルビジネス

神戸製鋼様をはじめとするお客様の海外進出を支援するために、中国の現地法人とのアライアンスを強化し、現地でのサービスを充実させるとともに、他国での現地支援サービスについてもその基盤を構築します。

次の一手 (将来を見据えた新しいビジネスの創発)

お客様の競争優位を実現するための迅速かつ柔軟なアプリケーション開発に貢献するため、従来の基幹システム開発、インフラ構築・運用に加えてCAMSSTM技術を活用したクラウドインテグレーションサービス、運用アウトソーシングサービス、さらに、SAP HANAを活用したBI (Business Intelligence) や生産計画OI (Operational Intelligence)、グローバル分散設計などの分野についても取り組んでいます。

※ CAMSS: Cloud, Analytics, Mobile, Social, Security

事業を支える経営品質向上施策

人財育成強化

お客様にHigh-Valueをお届けするために、大規模プロジェクトのPM、高度なIT技術者、グローバル人材などの育成に努めています。また、製造業の実践的な業務知識を身につけるため、神戸製鋼グループでの豊富な経験と知見を有する有識者による教育を実施します。

ダイバーシティ推進

すべての社員が仕事と生活を調和させ、その能力を最大限発揮できるように、労働形態、働き方など人事制度の改革に努めます。

プロジェクト品質向上

お客様に高品質なシステムを提供するために、トラブルの未然防止、早期認知、早期対応を強化するためのプロセスを運用します。また、プロジェクトのPMを組織的に支援することにより、お客様のプロジェクトの確実な推進に努めます。

コスト競争力強化

お客様にとって価値のあるアプリケーションを、迅速かつ継続的に提供するための技術習得と開発プロセス標準化の推進により、生産性向上に努め、コスト競争力の強化を図ります。

経営のスピードアップ

お客様の求めるIT活用のスピードに迅速に対応できるように、コベルシステムの経営をスピードアップするための仕組みづくりを強化します。

ワークスタイル変革

お客様との対話時間を増やすことと社員の働きやすさを両立させるために、社内での利便性の高いインフラ環境の実現とオフィス環境の改善に努めます。

ブランディング強化

コベルシステムが市場をより理解し、お客様に当社の提供ソリューションやサービスを広くご理解いただくために、双方向のコミュニケーションを強化します。

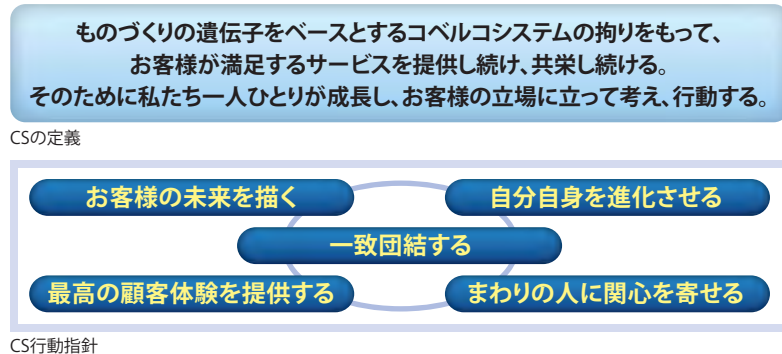
お客様にご満足いただくために

コベルシステムでは、お客様満足度向上活動を、経営を支える大切な取り組みとし、お客様の声に耳を傾け、お客様のご期待を超え、お客様に感動していただける会社づくりに取り組んでいます。

CSの定義とCS行動指針

お客様に「コベルシステムのCSとは？」とたずねられたとき、全社員が胸を張って同じ言葉で説明できる『CSの定義』、そしてお客様に感動していただくための行動の基本となる『CS行動指針』があります。

これを社員一人ひとりの胸に刻み込み、お客様に愛されるコベルシステムを目指しています。



CS活動の推進体制

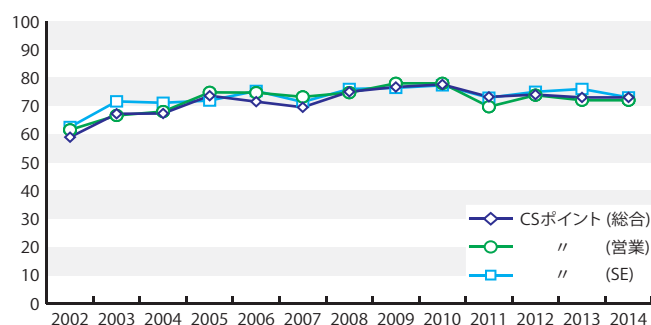
お客様満足度向上の観点から、全社レベルの課題に対する施策の検討や迅速な対応を行う仕組みとして、全社横断的な組織であるCS委員会を設置しています。お客様の声に耳を傾け、先進的なITの知識と熟知したお客様業務の知識を融合させ、お客様とともに

未来をつくり、お客様に真に満足していただけるサービスをお届けできるように活動しています。CS委員会は経営会議の諮問機関として、会社の経営方針やさまざまな施策についても、お客様のご満足をベースとした提言を行っています。

お客様満足度調査

コベルシステムでは、お客様からのご意見やご評価をお聞きするため、3種類の満足度調査を行っています。数字での評価とともに真っ先に改善すべき点など、忌憚のないご意見をいただいています。

お客様からのご意見やご指摘は、全社的な対応、部門としての対応など、それぞれに応じた改善策を検討し、実施しています。お客様とともに課題を共有し解決することで、お客様システムの安定稼働、サービス品質の向上へとつなげています。お客様のご期待を超える対応を心掛け、真のパートナーとしての絆を築いて、お客様とともに成長していきます。



お客様満足度調査

営業・SEの活動、サービスや成果物などコベルシステムの活動全般の調査

プロジェクト満足度調査

構築・開発のプロジェクトごとに調査

サービス満足度調査

運用保守サービスごとに調査

お客様の声

2014年のお客様満足度調査でいただいたコメントから抜粋

- ◆ 長くお付き合いさせていただくために長期的な展望に立ち弊社へ提案していただければいいと思います。
- ◆ 貴社内の社内連携・コスト・要求に対する対応スピード・継続的な提案など、さらに良くなることを期待しています。
- ◆ 問題発生時の調査がより迅速、的確に行えるよう、いっそうの知識・技術の向上を期待します。
- ◆ 日本国内でなく海外までサポートしている環境で現地のITと日本のITが連携されている体制づくりに期待したい。

CS意識のワンランクアップ

CSスローガン

毎年、社員からCSスローガンを募集し、その中から全社員の投票により翌年のCSスローガンを決めていきます。

今年は、『気付こう期待 築こう絆』が選ばれました。

このCSスローガンをポスターにして執務フロア、会議室、各事業所と、全社のあらゆる場所に掲示し、社員のCS意識の向上を喚起していきます。



2015年CSスローガン作者の声

私の部門内でベテランから若手への世代交代が進んでいたため、「若手の心にも響くメッセージを」と考え、この言葉が生まれました。期待と絆。どちらも、ちょっとしたことで崩れてしまうものです。私自身もこの言葉を胸に、仕事をしたいと思っています。



SO本部 植田 拓寛さん

CS改善活動

社員一人ひとりが改善の意識を持ち、同じ問題意識を持った社員や同じ職場などでチームを組んで自発的にCS改善活動に取り組んでいます。

2014年は、これまでで過去最多の75チーム、約1,000人の社員の過半数(533人)が、お客様に満足していただけるサービスの提供を目指して活動に取り組みました。

また、社員相互の改善意識を刺激し、さらなるCS改善活動の活性化を行うために、毎年9月にCS改善活動発表会を行っています。神戸、東京の両本社と全国の6事業所をTV会議システムで接続し、発表内容を共有しています。



この活動を通して、問題の発見能力や解決能力の向上、お客様に貢献したいとの思いがさらに高まっています。

2014年CS改善活動 最優秀賞チームの喜びの声

活動テーマ 保守運用における提案プロセスの構築と実践

チーム名 高砂組



チームリーダー 河村 亮さん

大勢の前での発表がとても苦手で大変緊張しましたが、最優秀賞を受賞できて、驚きと喜びでいっぱいです。この活動を通して、室員の普段の業務への関心が活動前よりもいっそう深まりました。提案のきっかけになる「業務のムダ」や「この方法で改善できるかも」という気づきが増えました。

CS集中討議会

社員の「腑に落ちたCS意識の浸透」を目的に、中堅社員を対象として2010年から毎年実施しています。お客様視点での思考の大切さ、それに向けた行動の変革などについて真剣な議論が行われています。

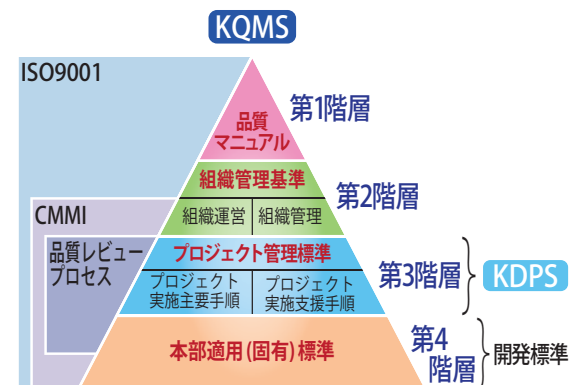
2014年のCS集中討議会は、第一線で仕事をしているグループ長を対象に実施しました。次世代を担う社員の心豊かな感性を育む場として、重要な役割を果たしています。



品質向上活動に終わりは無い

コベルシステムでは、システム開発・構築における品質向上を図るため、1999年に認証を取得したISO9001をベースにCMMI(統合能力成熟度モデル: Capability and Maturity Model Integration)の考え方を取り入れた品質マネジメントシステム「KQMS」を構築、運用しています。さらに、この下に「KDPS」、「品質レビュープロセス」と呼ぶコベルシステム独自の仕組みを構築しています。

全社品質方針(2014年度)
さらなる成長へのステップアップを目指し、品質確保の仕組みをさらに強化し、高い品質レベルでの均一化を図る



品質マネジメントシステム

KQMS: KOBELCO SYSTEMS Quality Management System

全社で共通のQ(品質)、C(コスト)、D(進捗)の管理サイクルを制定し、各プロジェクトの状況をKQMSサポートシステムで一元管理しています。これによりQCDの管理レベルの平準化とプロジェクト情報の見える化を実現。さらに品質方針・品質目標管理によるマネジメントレビューを通じて継続的に改善活動を行うことによって、組織としてのQCD管理レベルの向上を図っています。

開発プロセス標準

KDPS: KOBELCO SYSTEMS Development Process Standards

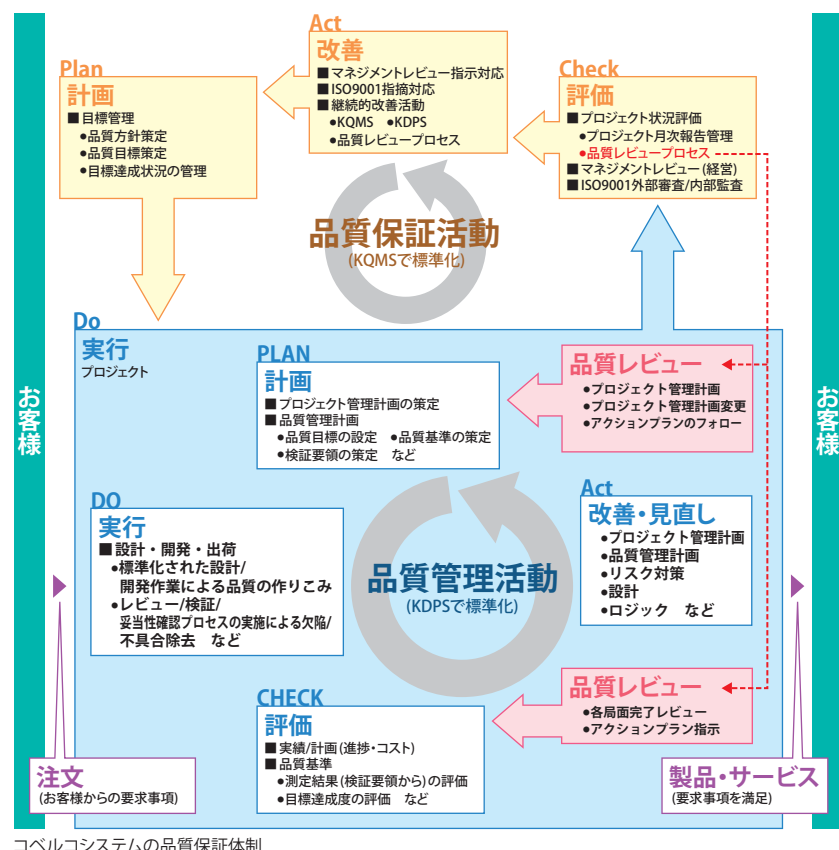
KDPSは、システム開発・構築などのベストプラクティスとしてのプロセス改善モデルであるCMMIの考え方を取り入れ、コベルシステム独自のプロジェクト管理手順をシステム開発・構築プロセスの標準として組み立てたものです。プロジェクト計画や検証活動の手順・様式を充実させており、管理作業効率向上のためのひな形や管理ツールも準備しています。

品質レビュープロセス

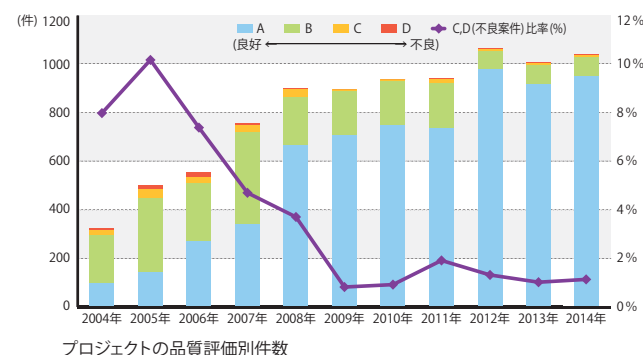
個々のシステム開発・構築が、お客様のご要望を満たし、高品質かつ所定のコスト内で確実に実現できるようにするため、コベルシステム独自の品質レビュープロセスを実施しています。このレビュープロセスは、お客様への提案段階からサービス実施期間全体を対象とし、サービスの成功を脅かすリスクの特定・定量化・対応策策定を行うため、特別に訓練されたレビューアによって実施しています。

* ISO9001の認証登録更新(2014年12月)

適用規格[ISO9001:2008]について、2014年12月に更新審査を受審し、改善指摘事項(重大な不備)は発見されず、認証登録が更新されました。



コベルシステムの品質保証体制



セキュリティなくしてビジネスなし

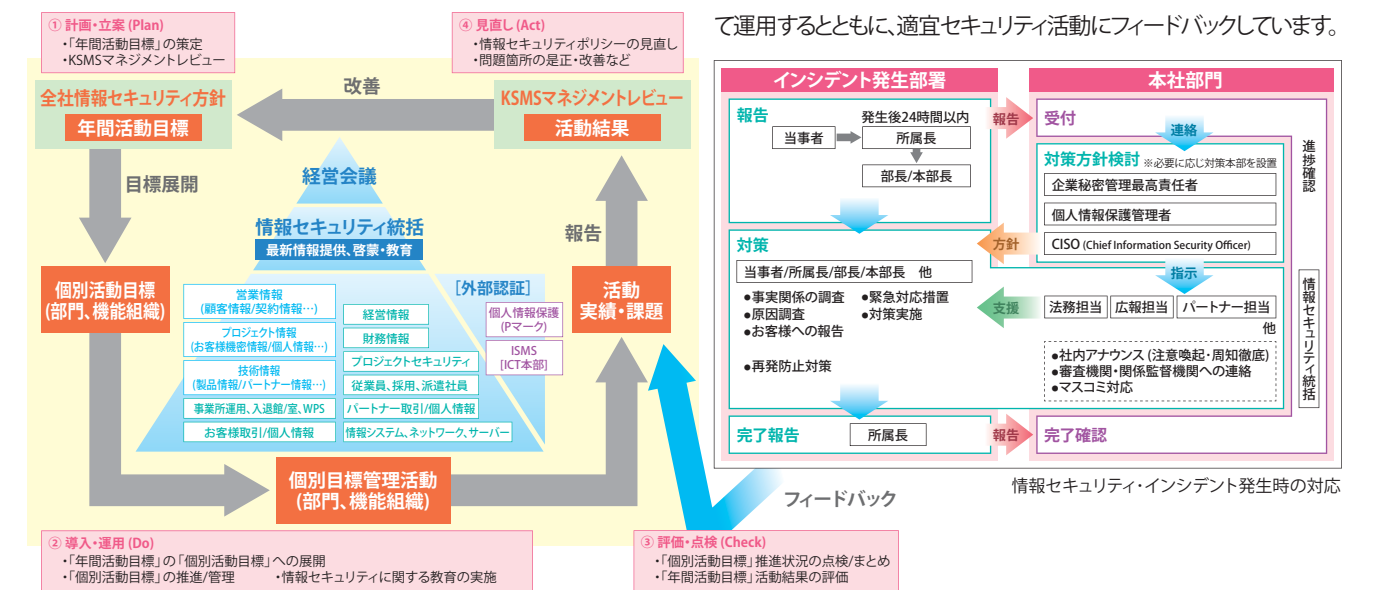
情報セキュリティマネジメントシステム KSMS: KOBELCO SYSTEMS information Security Management System

情報セキュリティのリスクは、技術進歩・製品進化・事業内容により、常に変化し続けています。その変化をとらえ、セキュリティ対策を取っていくことは、企業存続に必要不可欠です。

コベルシステムでは、これらの取り組みをKSMSとして定め、経営幹部によるマネジメントレビューの下、情報セキュリティポリシーの

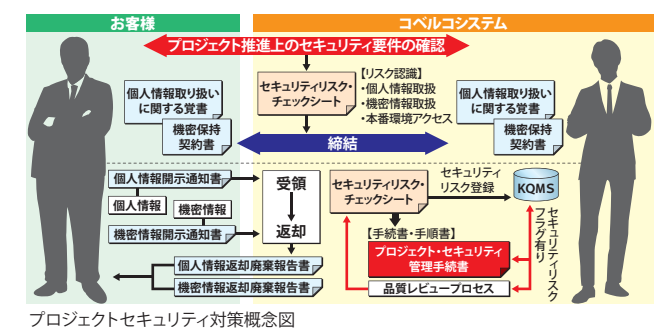
設定・見直し、および「物理環境(事務所、ロッカーなど)」「システム環境」「人的(社員・ビジネスパートナー様など)」「社会的責任」「ビジネス」の各視点でのセキュリティ活動のPDCAサイクルを回し、適切なセキュリティ水準を維持するようにしています。

また、突発的なセキュリティ・インシデントには、全社対応体制を整備して運用するとともに、適宜セキュリティ活動にフィードバックしています。



プロジェクトセキュリティプロセス PSP: Project Security Process

コベルシステムでは、プロジェクトのQCD管理に加え、2009年からPSPによるセキュリティ管理を推進、強化してきました。PSPとは、プロジェクトごとにセキュリティリスク(個人情報の取り扱い、機密情報の取り扱い、本番環境アクセス)を把握した上で、お客様とリスクを共有し、対応策を実施していくセキュリティ管理手法です。2014年、この手法の運用定着化をまとめた論文は、第52回IBMユーザー論文で、銀賞を受賞しました。お客様からお預かりしている情報資産を守ること、そしてその情報資産へのアクセスを管理することはコベルシステムの使命と考え、プロジェクトのセキュリティを確保しています。



情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)

「ハウジングサービス」「インフラ運用サービス」「ソリューションサービス」について、第三者による情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)適合性評価を受けています。お客様からお預かりする大切な情報資産を守るため、技術的なセキュリティ対策と組織全体のマネジメントの両面から、高度なセキュリティ管理下でのサービスを提供してきました。このことが、本制度運営を担う一般財団法人日本規格協会から、10年以上にわたりISMSの登録を継続し、その維持・改善に努めたことを評価され、2014年に永年登録表彰を受けました。

個人情報保護の推進

コベルシステムでは、プライバシーマーク制度設立当初の2000年にいち早く認定を取得し、以来、現在にいたるまで個人情報保護レベルの向上を継続してきました。今後も個人情報を適切に保護していくために、2014年は、特に内部監査に力を入れ、個人情報保護マネジメントシステムの厳密さを向上させました。

新たな付加価値を創出するために

技術・スキル委員会

技術・スキル委員会は経営会議の諮問機関として、技術担当役員を委員長、各本部の開発部長・本部長(約30人)を委員として構成しています。

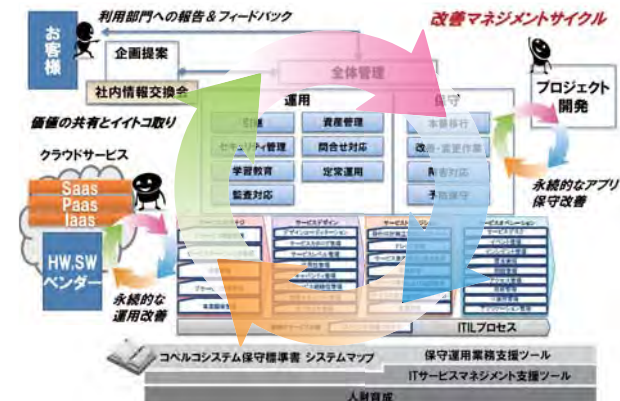
これまでの活動には、コベルコシステムの品質体系(KQMS)や開発プロセス標準(KDPS)の審議やソリューションテンプレートのアセット化推進、先進技術の推進、PM力強化などの答申を行い、当社の技術・スキルの礎を築いてきました。

2014年の主な活動

- ① 保守サービス高度化
- ② KTO2014の構築
- ③ テンプレート開発、活用
- ④ 秘伝のタレ2014の編集
- ⑤ 先進技術カンファレンス
- ⑥ 中期技術テーマ



現在、お客様への保守サービスの高度化、お客様高価値創出を目指して、ITサービスの効率化、企画・提案力強化に対する審議を行い、新たな付加価値創出をもって、お客様とともに、成長への変革に挑んでいます。



保守・運用改善マネジメントサイクル

KTO (KOBELCO SYSTEMS Technology Outlook)

コベルコシステムでは、発展的な視点から当社が活用すべき技術・スキルの今後を鳥瞰できる「KTO」を、2006年から作成しています。グローバルレベルの先進技術動向や国内のIT業界動向と、その成熟度をとらえ、お客様に貢献できるよう当事業メニューに

特化した技術や先進技術への取り組みの方向性を示しています。お客様が直面されている課題の解決や次期IT環境構築のロードマップ作成をお客様とともに進める一助として活用しています。

■ 業界動向

「いち早くキャッチアップすべき、新しい技術は何か」
「競争力を保つのに必要な技術は何か」
ITを利用する多くの人々がどのような技術に関心があり、またその成熟の度合いを知ることは重要です。全体を網羅し、鳥瞰することにより、その年の技術トレンドを理解することができます。

■ 当社の先進技術フォーカス分野

先進技術フォーカス分野は、コベルコシステムの先進技術への取り組みの方向性を示し、今後の事業メニューを支える技術をリードします。毎年先進技術フォーカステーマを設定し、先進技術への取り組みを推進しています。

先進技術フォーカステーマ

- | | | |
|--|--|---|
| <p>クラウドを基盤とした開発、保守・運用技術の刷新</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 開発、保守・運用技術の刷新 ● システム管理の考え方の刷新 ● オープンPaaSへの期待 | <p>オープン開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 4つのオープン ● 適応型開発の強化 ● オープン開発プラクティス | <p>データによる価値訴求</p> <ul style="list-style-type: none"> ● データがデータを生み出す好循環 ● オープンデータ、非構造化データの活用 ● データ仮想化環境の実現 |
|--|--|---|

■ 先進技術動向

IT業界の大手ベンダーは、自ら業界のイノベーションをリードしていますが、新技術への期待は過剰な宣伝により一時的に高まります。技術の黎明期から安定期にいたるまでの、成熟度の変化をとらえて技術の採用時期を決定することが必要です。技術動向では、中長期的な技術を鳥瞰することができます。

■ 当社の事業メニューに特化した技術

コベルコシステムは、お客様の課題を解決し、お客様価値創出に貢献するために、事業メニューに特化した技術を追求しています。お客様とのパートナーシップの強化を通して、お客様の競争力向上に貢献します。



KTO 2014年版 紹介冊子

外部からの評価

お客様にお納めした先進的なシステムやアセットビジネスの取り組み、ワークスタイル変革の取り組みなどをご評価いただきました。また、ビジネスパートナー様からも、コベルコシステムの昨年1年間の取り組みをご評価いただきました。コベルコシステムにとって一番の喜びは、お客様からの「ありがとう」です。2014年もお客様からの「ありがとう」が届きました。これからも、お客様から笑顔で「ありがとう」と言ってもらえるよう、お客様のコラボレーションパートナーとして尽力していきます。

三井住友トラスト・システム&サービス株式会社様 感謝状

住友信託銀行様、中央三井トラスト・ホールディング様の経営統合による全店共通の新システム導入に際し、三井住友トラスト・ホールディング様関連4社の運用保守を担当するコベルコシステムは、移行期間中の特別運用対応(深夜/休日出勤/日常の特別対応)について感謝状をいただきました。



MCFrame Award

「MCFrame Award 2014」において、「Excellent Partner Award」を受賞しました。これにより、4年連続5度目の受賞となりました。



第27回 日経 ニューオフィス賞

「第27回日経ニューオフィス賞」において、本社オフィスが「近畿ニューオフィス コミュニティ賞」として表彰されました。



ISMS (情報セキュリティマネジメントシステム) 永年登録表彰

コベルコシステムでは、2003年にISMSの登録認定を受け、継続して登録認定を受けてきました。10年以上にわたり、ISMSの登録を継続し、その維持・改善に努めたことを、一般財団法人日本規格協会から評価され、表彰されました。



先進的なプロジェクトにおけるベストプラクティスをまとめた論文や日本IBM主催の開発コンテストへの応募作などが評価されました。

- 2014年度 第52回 IBMユーザー論文で銀賞・銅賞を受賞
 - ・ 銀賞: お客様の情報資産を守るプロジェクトセキュリティ管理手法の運用定着化
 - ・ 銅賞: スタッフ業務の無駄排除による企業体質強化プロジェクト (神戸製鋼様との共著)
 - ・ 銅賞: ワークスタイル変革を加速するワークプレイスとITインフラの構築
- 日本ガイドシェア (JGS) で優秀論文を受賞
 - ・ BABOKを活用した「超上流プロセスガイド」の提案 ~ちゃぶ台返しを減らすために~
 - ・ ノウハウ喪失リスク定量化手法の提案 -意識改革を促しノウハウ共有を実現するために-
 - ・ クラウド情報セキュリティ監査制度の有効性研究 -効果的・効率的なクラウドサービス利用を目指して-
 - ・ MQTT-S実用化について -MQTT-Sプロトコルの検証と実用化の課題-
- 開発コンテスト「IBM Bluemix Challenge」で審査員特別賞を受賞

IBM Bluemixを使用して開発されたアプリケーションやサービスを対象とした開発コンテスト「IBM Bluemix Challenge」において、美術館や展覧会の情報を収集したり、展覧会の思い出をメモできるiOS/Androidアプリケーション「アートメモ」が、審査員特別賞を受賞しました。



アートメモ

お客様事例のご紹介

トッパンフォームズ様

トッパン・フォームズ株式会社様(代表取締役社長:櫻井 醜様)は、ビジネスフォームの専門会社として1955年に設立。以来、業界のリーディングカンパニーとして常に新しい製品やソリューションを提供されています。

事業の大きな核として、ビジネスフォームへのデータのプリントや加工処理を受託するデータ・プリント・サービス(DPS)を展開し、世の中のアウトソーシングへの流れを的確にとらえ、ビジネスを拡大されています。

また、ビジネスフォーム製造で培ってきた加工技術と、印刷の応用で電子部品を製造するプリントド・エレクトロニクスなどの新開発技術を組み合わせることで、機能性に富み、低価格なRFID媒体を安定的に供給できる体制を整えられています。

コベルコシステムは、トッパンフォームズ様のDPSを支えるインフラ基盤提供、プリンティングソリューション開発、システム運用支援で長年お付き合いをさせていただいています。金融業を中心としたお客様の大切な情報をお預かりし、確実にかつ安全に伝える技術や体制を実現するために、主にメインフレーム運用、基幹サーバー構築、アプリケーション開発、ミドルウェア構築・運用の面で支援しています。



トッパンフォームズ様本社

TOPPAN FORMS

一方、両社のノウハウを結集した人事・給与業務のプロセスアウトソーシングサービス「FORSYS」をコベルコシステムから提供しています。クラウド型人事・給与システム、人事・給与業務の受託サービス、データプリントサービスを一体化させることで、数多くのお客様の戦略人事部門の体制確立をサポートしています。

また、コベルコシステムが手がけるシステムインテグレーションでは、トッパンフォームズ様のRFID技術を用いた製品を利用し、インテグレーションしてお客様に納入するなど、双方の強みを生かしたビジネス展開を行い、ITによる社会的な課題の解決に尽力しています。

今後も市場ニーズを的確にとらえ、常に最先端のソリューションを提供できるよう、さらに強固なパートナーシップをトッパンフォームズ様とコベルコシステムで築いていきます。



決済サービス



ビジネスメール



データ・プリント・サービス(DPS)



一般帳票

アンリツ様

アンリツ株式会社様(代表取締役社長:橋本 裕一様)は、1895年の創業以来、一貫して情報通信分野で事業を展開し、本年創業120年という節目を迎えます。現在は通信用計測器を事業の柱とし、各種通信システムやサービス・アプリケーションの開発、品質保証に欠かせない計測ソリューションを提供。スマートフォン・携帯端末からのWebアクセスや音楽ダウンロード、テレビ会議や動画配信、デジタル放送などさまざまなサービスを支えています。また、アンリツグループでは、食品・医薬品用異物検出機や重量選別機、帯域制御装置、遠隔監視制御装置なども提供。幅広い分野で、安全・安心で快適な社会づくりに貢献されています。

アンリツ様は、長期的な経営方針として「2020VISION」を策定し、2020年の企業像として「グローバルなマーケットリーダーになる」という目標を掲げられています。この達成に向け、情報戦略では、最高の顧客サービスを創造するために、刻々と変化するビジネス環境を確実にとらえ、安全・安心な情報セキュリティや柔軟で効率的なITソリューションを一元的に提供することで、国内外のグループ会社の経営情報システムの統合に取り組まれています。

アンリツ様の情報システムの運営方法は、専門性の高いベンダーにRFPを発行し、評価した上で契約するというマルチベンダー制です。ベンダー選別に慎重なアンリツ様がコベルコシステムをパートナーとして選ばれたのは、ERPシステム構築の豊富な実績と技術力の高さを評価していただいたからです。



プロジェクト慰労会(2014年6月)



宮ヶ瀬24時間リレーマラソン アンリツ様・コベルコシステム 混成チーム(2014年8月)

Anritsu envision:ensure

2012年からスタートしたERPシステム国内グループ会社横展開プロジェクトでは、まず、2社のグループ会社を同時並行して進め、6ヶ月という短期間で導入することに成功しました。緻密なビジネスプロセス設計はもちろん、多数の外部システムとの連携設計をまとめあげ、円滑なデータ移行に注力したことが成功要因として評価されました。経営情報システム部長 宇佐美 学様からは、「プロフェッショナルな知識に加えて、導入を成功させるため、弊社のメンバーと真摯に向き合い、考え、行動する姿は素晴らしい。弊社側で行うタスクについても、惜みない支援をしてくれる」とのお言葉をいただいています。

ERPシステム国内グループ会社横展開プロジェクトは2014年に8社を完了し、2015年1月に残り1社のプロジェクトがスタートしました。今後は、欧米やアジアの販売会社や工場にもシステム統合を広げていく予定です。

今後も、コベルコシステムはより価値の高いソリューション・サービスを積極的にご提案し、アンリツ様が最高の顧客サービスを創造されることに貢献していきます。



通信用計測器

アンリツ様本社



✦ 公正なパートナーシップの維持

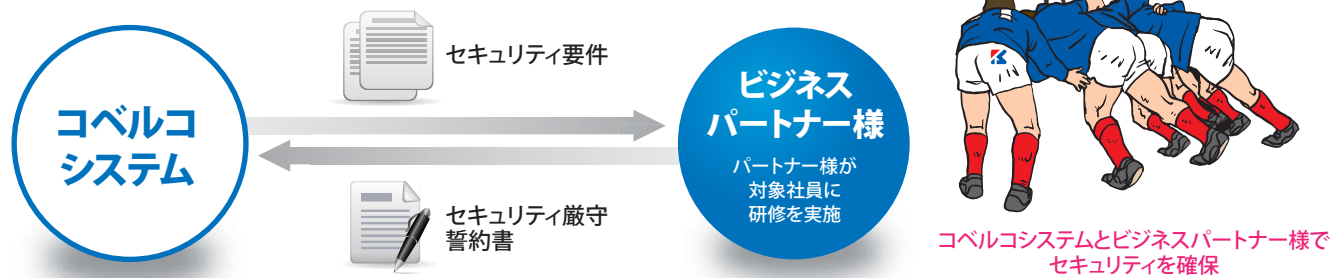
一体となってセキュリティを確保する

コベルコシステムは、ビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行しています。その際、ビジネスパートナー様には、コベルコシステム社員と同等の基準でセキュリティを確保し、お客様に安心をお届けできるようご協力いただいています。

コベルコシステムでは、社員に対し、セキュリティ事項の遵守、徹底を図るために、毎年内容を見直して研修を実施しています。また、ビジネスパートナー様に対しては、各社の責任者に依頼し、

対象社員に研修を実施していただいています。

これにより、コベルコシステムとビジネスパートナー様が一体となって、お客様のセキュリティを確保しています。



ともにコンプライアンスを遵守し業務遂行力を高める

コベルコシステムでは、ビジネスパートナー様とともに成長していくため、ビジネスパートナー様の「コンプライアンス遵守状況」と「業務遂行力(プロジェクト遂行力)」という2つの観点から総合的な確認を行っています。

コンプライアンス遵守状況に関する確認

会社としてのコンプライアンスへの取り組みを以下の項目で確認しています。

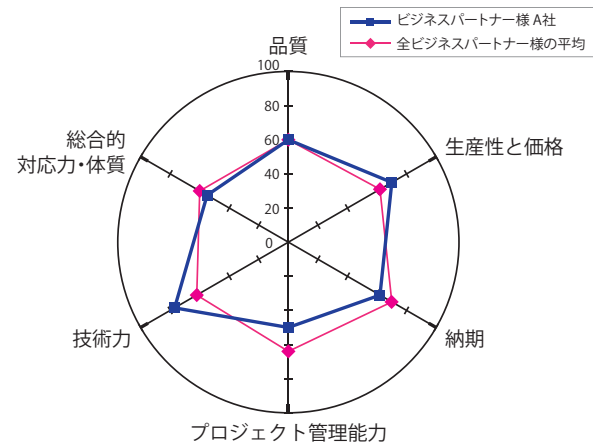
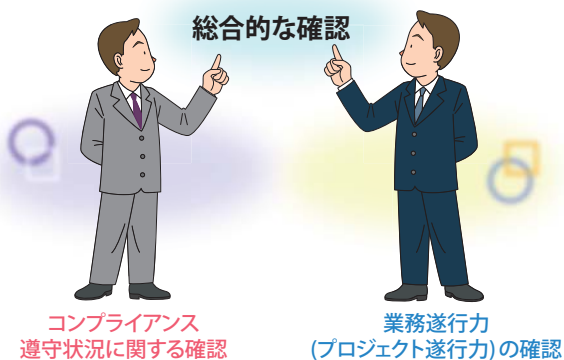
- ① コンプライアンスに関する専任者の設置など
- ② 取引の適正化に向けた取り組み姿勢
- ③ セキュリティ管理
- ④ 公的承認の取得
- ⑤ 組織的・人的・物理的・技術的安全管理

業務遂行力(プロジェクト遂行力)に関する確認

実際のプロジェクトでビジネスパートナー様と協業したコベルコシステムのプロジェクトマネージャーが以下の項目で判断しています。

- ① 品質
- ② 生産性と価格
- ③ 納期
- ④ プロジェクト管理能力
- ⑤ 技術力
- ⑥ 総合的対応力・体質

各ビジネスパートナー様のレベルアップ活動を支援するため、上記の結果をフィードバックしています。



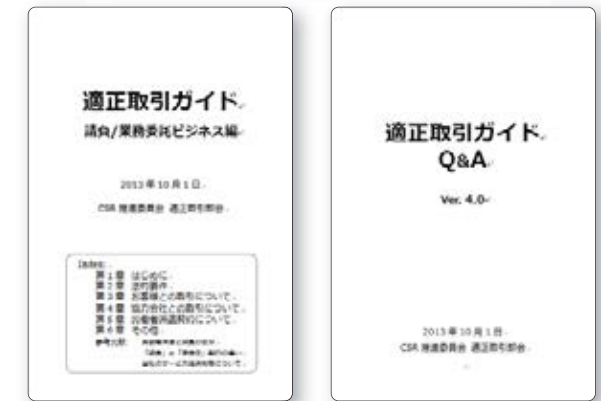
適正取引の推進

コベルコシステムでは、ビジネスパートナー様へのそれぞれの業務委託方式に合わせた発注・進行管理を行っています。それらを適正に行うために、CSR推進委員会の下部組織として「適正取引部会」を設け、具体的なガイドをe-ラーニング「適正取引ガイド」などにより社内に徹底する一方、ビジネスパートナー様に対しても定期的なレターの送付、アンケート調査、個別訪問の実施などを通じてその理解と実践をお願いしています。

主な取り組みは、以下の3点です。

- ① ビジネスパートナー様における適正取引状況の調査
- ② ビジネスパートナー様の再委託先活用状況確認
- ③ 請負の適正化のための自主点検実施および実態調査

これらの活動により、ビジネスパートナー様との健全な関係を維持し、お客様をサポートしています。



ビジネスパートナー様への感謝

コベルコシステムでは、プロジェクト遂行部門からの推薦を受けて、貢献度の高かったビジネスパートナー様へ感謝状を贈呈しています。

2014年度は、当社の社長賞受賞プロジェクト「S社様向け営業支援システム構築プロジェクト」に大きく貢献いただいた株式会社サイプレス・ソリューションズ様に感謝の意を込めて感謝状を贈呈しました。



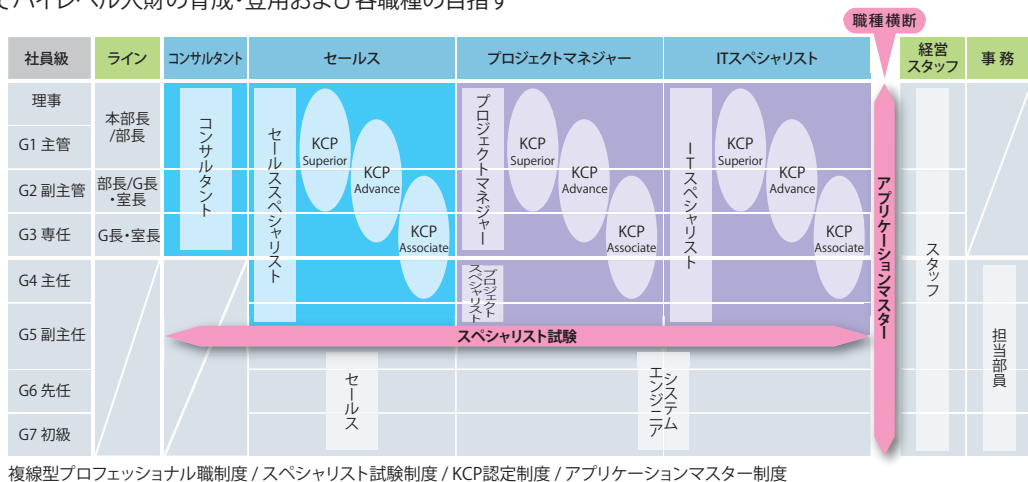
人財育成の仕組み

『コベルコシステムの最大の資産は人であり、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮こそが会社発展の原動力である、という認識の下、一人ひとりが互いを尊重し合いながらイキイキ働き、プロフェッショナルとして人間として成長できる会社の実現』を人事基本理念に据え、「期待する人材像、人材要件」を下記の通り定義しています。

- ① ITのプロフェッショナルとして、常に自らの専門性を磨き、高めるとともに、時代や環境の変化に柔軟に自分で考えて動くことができる人材
- ② 人と協働し、他も活かし、組織・チームの目標達成のために、組織・チームの能力の最大化と最大限発揮に貢献できる人材
- ③ 社会人・企業人として、社会や会社のルールを遵守し、お客様に対しても常に責任をもって誠実に対応できる人材

複線型プロフェッショナル職制度を基軸に ～コベルコシステム認定プロフェッションを目指して～

これらを具現化する仕組みとして、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮を追求する複線型プロフェッショナル職制度を採用しています。そしてハイレベル人材の育成・登用および各職種を目指すべき人材像として、KCP認定制度 (KOBELCO SYSTEMS Certified Profession) を設けています。



教育・研修体系

コベルコシステムでは、社員の成長にさまざまな角度からアプローチする多面的な教育・研修制度を設けています。「すべての質を高めよう」というスローガンの下、IT技術の研修だけではなく、ヒューマンスキルなどの普遍的要素の研修に加え、2014年度はお客様の経営課題解決に寄与する、コンサルティング力、モノづくりや現場力の強化、そして営業力の強化研修など経営戦略に即応した、さまざまな研修を導入・実施しました。また、社員全員が知識を修得するための必須研修、階層や役割別に実施され、個人の成長段階に合わせて受講できる研修や、階層や役割に関係なく受講できる研修など個人のキャリアプランに合わせて選択して受講できる研修を導入しています。

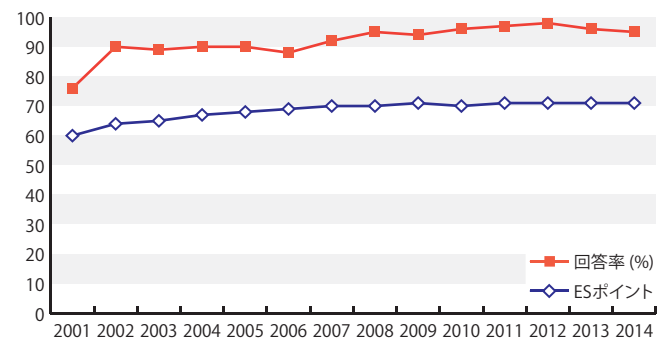
研修は集合教育の他、eラーニングや通信教育制度も整えており、個人のスケジュールに合わせて効率よく利用できる環境を提供しています。2015年はお客様により高い付加価値 (High-Value) を提供できる人材育成を強化します。

	階層別研修 ※各社員級 (G7~G1) に求める必須の知識・スキル・マインドに関する育成・研修	役割別研修 ※当該の役割を担うに当たり、必須の知識・スキル・マインドに関する育成・研修	プロフェッショナル研修	共通研修 (必須研修)	戦略研修	部門独自の研修
ベテラン	・管理職としての研修 ・ビジネスリーダーシップの開発	・部長研修 ・グループ長研修	・ヒューマンスキル ・人間力 ・対人適応力 etc.	・適正取引 ・人権啓発	・コンサルティング力 ・営業力	・各部門による
中堅	・実務リーダーとして必要なリーダーシップの育成		・ビジネススキル ・タイムマネジメント ・コーチング etc.	・情報セキュリティ ・インテグリティ	・モノづくり、現場力 ・グローバル	
若手	・業務遂行能力の向上		・テクニカルスキル ITIL etc.			
新入社員	・問題解決力の向上 ・一人前のプロフェッショナルの育成 ・社会人への意識改革 ・基本スキルの習得	・アドバイザー研修				

社員満足度調査

「社員満足 (ES) の向上がお客様満足 (CS) の向上につながる」との基本認識の下、2001年から毎年、社員満足度調査を実施しています。結果を社内で分析し、認識した課題と改善策は社長コミットメントとしてイントラネット・社内報で全社員にアナウンスした上で、経営計画や人事労務施策に反映しています。近年は、総合満足度との相関は高いがポイントが低い設問に加え、「一律から個別へ」の方針を掲げ、「業務環境の違い」に着目して対策を取っています。全社結果では8年連続70ポイント以上を堅持していますが、業務環境による社員満足度のバラツキの是正など、社員一人ひとりを

取り巻く環境を踏まえ、「満足の質」を高める課題の発見や改善に向けたアクションに取り組んでいます。



グローバル人材育成

コベルコシステムが求めるグローバル人材とは、「社会人基礎力」や「ITスキル、プロジェクトマネジメントスキル、セールススキル」をベースに、「異文化を理解する力」「世界で幅広く通用するコミュニケーション力」というグローバル特有要件を兼ね備えた人材です。この特有要件を満たすために、特に力を入れているのが、毎年香港で開催されている日本PMI主催のグローバル・リーダー研修

です。当研修は、グローバル・プロジェクトに携わるリーダーが直面するさまざまな問題を、英語をベースにして考え、話し合うことで、実際にグローバル・プロジェクトに立ち向かう姿勢や役立つ方法を体得します。また、香港を中心としたアジア企業からの参加者との交流は、異文化理解やグローバル・コミュニケーション力の強化にもつながる大変有用な研修です。当社では、2012年から2人ずつ、計6人参加しています。2014年に参加した社員は帰国後、英語力および異文化理解を深めることを目的とした社内コミュニティを立ち上げ、現在20人が活動しています。当研修でさまざまな気付きを得た受講者の熱い思いが伝播するコミュニティと、当研修に継続的に参加する相乗効果で、グローバルで活躍できる人材輩出が加速する環境づくりをこれからも積極的に行っていきます。

異文化理解

グローバル・コミュニケーション力

ITスキル、プロジェクトマネジメントスキル、セールススキル

社会人基礎力

グローバル・リーダー研修参加者の声

私がグローバル・リーダー研修に参加して感じたことは、英語はあくまでもツールであって、伝えるべき「内容」と伝えたい「気持ち」があれば、コミュニケーションはできる、ということです。本当に必要なのは、英語力ではなく、コミュニケーション力と、PMとしての経験、そこから身に付けた姿勢や考え方などの基礎力だと実感しました。過去の日本における英語教育の弊害として、「完璧」で「正しい」英語を話さないと、英語ができるとは言えない、と思い込んで英語に苦手意識を持っている人は多いかと思います。英語に苦手意識を持ってチャンスを逃すのはもったいないと思いませんか？ その想いから、社内のグローバル意識の醸成を目指したコミュニティ活動を立ち上げました。将来的には社内のグローバル案件のアセット化や英語駆け込み寺など、英語に対する苦手意識を払拭するポータルサイトとして社内にも貢献していきたいと考えています。

SO本部 山口 美紀さん



社員と組織の絆を深めるために

3T(楽しい、短時間、達成感)推進活動

2014年の3T推進活動

3T活動とは、社員が仕事を効率的に進めながら、仕事を通じて「楽しい」や「達成感」を得られる職場づくりの活動です。2014年は、お客様先に常駐し、お客様の環境で仕事をしている

社員のケアと、どのようなときに「楽しい」や「達成感」が得られるのかについて、社員の声を紹介することを中心に取り組みました。

3Tメールマガジンの発行

お客様先で頑張っている人や、社員が仕事を通して得られた楽しい・達成感を紹介するコラムをメールマガジンで毎月掲載

し、3T活動の意識向上を図っています。

2014年にお客様先で頑張っている人としてメールマガジンに掲載された方々



社員が仕事で得られた「楽しい」「達成感」(一部抜粋)

・山登りと同じで、目標・課題のハードルが高く苦労も多いほど、代わりに得られる達成感も大きなものになります。中には当初解決の糸口がまったく見えないものもありますが、面白いもので逃げると面倒なことがどんどん追いかけてきます。逆に、難しい目標・課題にこちらから立ち向かっていくくらいの気持ちで頑張っていると助けてくれる人が出てきたり、解決のヒントがポンと頭に浮かんできたりします。達成感を得るにはチャレンジする勇気と粘り強さも必要なのです。

・達成感や楽しさというのは、その刹那だけのものではなく、後からも永らく感じられ、それがまた次の仕事の原動力になるような気がしています。組織の中の一員として仕事をしていると、なかなか“育てられている”とか“育てている”などという実感を持ちにくいかもしれません。しかし、長い時間の中で人は必ず成長し、ピンチに直面しても、そのとき、その人にしかできない方法で乗り越えられるようになって信じています。

お客様先で働いている社員のサポート

コベルコシステムでは、300人程度の社員がお客様先で働いています。人事部門は3カ月に1度、お客様先常駐者のうち数人を対象にお客様先を訪問し、直近の勤怠の状況や担当されている仕事の内容、職場環境についてヒアリングを実施しています。2014年は少人数で常駐しているお客様先を中心に17拠点を訪問しました。ヒアリング時のお客様先常駐者の声を紹介します。

やりがいを感じる(お客様先常駐者の声)

- ・お客様の情報システム部門とエンドユーザーの間に発生する悩みや苦労を共有し、それを乗り越えた喜びを分かち合うことでより大きな充足感を感じる。
- ・ひとつのことを共同で成し遂げた喜びをお客様と分かち合えることは非常に貴重な経験だ。

有給休暇の取得奨励

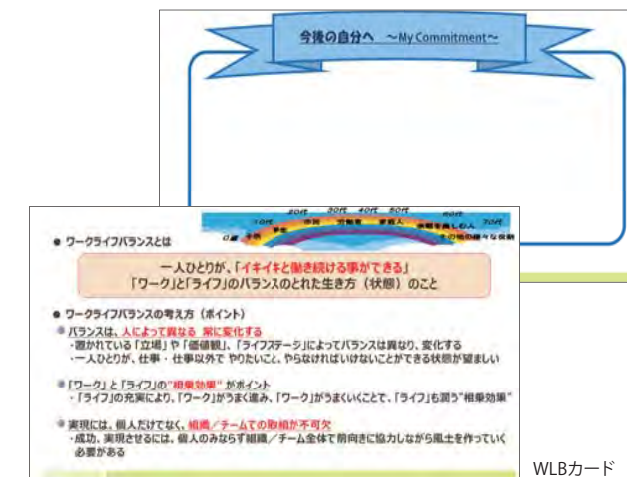
社員の有給休暇取得促進を目的に、土曜日の出勤日や飛び石連休の出勤日に有給休暇取得奨励日を設けたり、7月から9月までに連続9日間の夏休みを取得するよう奨励したりしています。

また、業務の都合で取得が難しい場合には、プロジェクトとプロジェクトの合間に連続した休暇を取得することも奨励しています。

KWC (KOBELCO SYSTEMS Work-life-balance Community)

2003年に女性社員の活躍を支援する全社横断の自主活動として「KOBELCO SYSTEMS Women's Committee (略称:KWC)」の活動がスタートしました。その後、2010年に「KOBELCO SYSTEMS Work-life-balance Community」と改称し、男性社員も含めた「社員が自らイキイキと働き続ける会社」をビジョンに据え、ワークライフバランス(WLB)に着目した新たな活動を展開しています。2013年度(2013年5月~2014年4月)は、2003年にKWC活動をスタートして以来、初めて男性社員がリーダーを務めました。2013年度は、各部門や職場でWLBについて考える機会の提供を目的に学習テンプレート「WLB座談会」を作成しました。このテンプレートは、WLBに関するDVD視聴を軸に、各部門や職場が抱える課題について話し合い、解決に向けて自ら実践することをWLBカードに宣言する構成になっています。各部門で独自運営が

できるように実施要領や進行表などのコンテンツが充実しており、すでにいくつかの部門で活用されています。



KWCリーダーの声

2013年度のKWC活動では、各職場でワークライフバランス改善を考えていく“きっかけ”として活用いただくことを目的とした、「WLB座談会」という企画・学習のテンプレートを作成しました。個人や職場ごとに異なる「ワーク」と「ライフ」の状況に対して共通の改善策はなく、それぞれの状況ごとに社員が考えていなければ改善できないのでは?と考えたのが作成にいたった理由です。テンプレートの内容は、WLBの学習と、現状と今後についてのグループディスカッションで、所要時間は2時間です。作成に当たっては、KWCフォーラムや私自身の職場も含め、計5回のトライアルを実施しました。参加された方からは、「意識や考え方が変わった」「職場で改善に取り組んでいきたい」という多数のご意見をいただき、私自身の職場では、ふとしたときにWLBが話題に上がるようになり、改善の“きっかけ”としての効果・変化を強く感じています。ESにWLBの項目がありますが、改善を始める“きっかけ”として、積極的に「WLB座談会」テンプレートを活用してもらえたらと思います。

ERPソリューション本部 谷尾 和宣さん



全社イベント「ハッピーデー」~家族も一緒に~

コベルコシステムでは、2008年から毎年秋に家族参加型の全社イベントを開催しています。2014年は、神戸・東京地区合わせ、社員とその家族約1,000人が参加しました。神戸地区は毎年恒例となっていた「ファミリー運動会」から「木下大サーカス鑑賞」にイベント内容を変えました。初めて見た人はもちろん、見たことがある人も大いに楽しんだ後、フルーツフラワーパークでのバーベキューで舌鼓を打ちました。東京では、お台場のスカイレストランにてビュッフェ形式の食事で親睦を深めた後、英国発の伝統的な蠟人形館「マダム・タッソー」で、等身大の有名なフィギュアの精巧さに驚嘆しながら名場面の

ワンシーンなどの記念撮影を楽しみました。全社イベントは、「社員同士の一体感の醸成」「社員を支えてくれている家族への感謝」をテーマに、社員とその家族にとって期待度の高いイベントに成長しました。



地域貢献・社会貢献活動

インターンシップ受け入れ

コベルコシステムでは、地域貢献活動の一環として、2008年から兵庫県内の大学に在籍し、日本での就職を希望する外国人留学生のインターンシップを受け入れています。

日本企業で働きたい留学生を教育の一環として継続的に受け入れることによって、地域でグローバルの輪を広げることに貢献

するとともに、異文化を学び、当社のグローバル化への適応力を養い続けています。



主な受け入れ元

- 2008年 10人 経済産業省「アジア人財資金構想」
- 2009年 8人 経済産業省「アジア人財資金構想」
- 2010年 5人 ひょうご大学連携協議会
- 2011年 8人 大学コンソーシアムひょうご神戸
- 2012年 10人 大学コンソーシアムひょうご神戸
- 2013年 8人 大学コンソーシアムひょうご神戸
- 2014年 10人 大学コンソーシアムひょうご神戸

第4回神戸マラソン 団体ボランティア

2014年11月23日(日)に開催された、第4回神戸マラソンに団体ボランティアとして参加しました。今回は全社員から希望者を募り、川瀬社長以下40人での参加となりました。

ペースセッターやランナーとして何人も社員が出走した今大会でも、ボランティアスタッフは、ゴールに近いポートアイランド

西側のしおさい公園北側、39km地点付近およびゴールまで3km地点付近で、完走や自己ベストの更新を目指してひた走るランナーを応援しながら、走路整理やランナーの案内・サポートなどを担当しました。



アビリンピック支援

アビリンピック(全国障害者技能競技大会)は、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が主催し、障がいを持つ人々が日頃培った技術を競うことで、職業能力の向上を図り、企業をはじめ社会の人々に障がいのある方々に対する理解と認識を深めてもらい、その雇用の促進を図ることを目的として開催されています。コベルコシステムは2003年以来、技能競技種目である機械CAD

と建築CADの環境設定や当日のヘルプデスク業務を担当しています。



その他の地域貢献・社会貢献活動

地域イベントへの協賛

寄付や協賛を通じ、地域の伝統や文化の維持に貢献しています。

- ▶ 神戸花物語
- ▶ 神戸まつり
- ▶ 神戸ITフェスティバル
- ▶ 神戸ルミナリエ
- ▶ アニメーション神戸



神戸花物語 2014春 協賛

スポーツ振興協賛

NPO法人スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構(SCIX)に協賛しています。

芸術への協賛

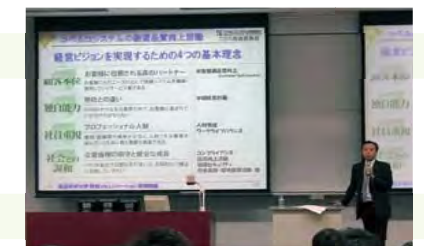
公益社団法人大阪フィルハーモニー交響楽団に協賛しています。

大学の特別講義への講師派遣

流通科学大学総合政策学部の情報コミュニケーション特別講義に講師を派遣し、CSRについての講義とコベルコシステムのCSRへの取り組みを紹介しました。

ペットボトルキャップ収集

世界の子供たちにワクチンを送る「エコキャップ運動」に参加しています。



流通科学大学 情報コミュニケーション特別講義

環境保護活動

「森の世話人」活動

コベルシステムが本拠を置く神戸は六甲山の自然に恵まれ、地域社会全体でその恵みを守り育て、親しみ、かつ、それを愉しんでいます。

コベルシステムでは、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所が推進中の防災事業である六甲山系グリーンベルト整備事業に「森の世話人」として参加し、六甲山の前山のひとつである金鳥山(神戸市東灘区)の南側緩斜面に広がる森林を「Kocoroちゃんの森」と名付けて整備しています。

主な活動は、他の植物の生育を妨げるネザサの刈り取り、腐朽木や外来樹種の伐採、常緑樹の間伐などです。活動に際しては、NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」のサポートを得て森づくりを行っています。

2010年から活動を開始し、40~50人規模の活動を年3回、また、年3回の活動の中間に5~10人規模での維持活動・準備活動を年5~6回実施しています。

2014年は天候にも恵まれ、大規模・小規模合わせて9回の活動をすべて予定通りに実施することができました。

1月には、見晴らしの良くなった「Kocoroちゃんの森」の休憩所に3脚のベンチを設置、ハイカーや登山客の皆さんにご利用いただいています。また、5月の活動では、2014年度入社の新入社員が多数参加して70人での活動となり、樹木への名札の取り付けも実施しました。



※コベルシステムの「森の世話人」活動の活動報告は、国土交通省の以下のページに掲載されています。
http://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/pr_media/plant/group/company/kobelco.php



Kocoroちゃん
コベルシステムの自然保護活動のイメージキャラクター Kocoroちゃん
※第12回アニメーション神戸 協賛事業として公募

国際ビーチクリーンアップ in SUMA (主催:クリーンアップ関西事務局)

ICT本部では社会貢献をテーマとしたタスク活動を行っており、その一環として、2014年4月27日(日)に開催された「2014年春・国際ビーチクリーンアップ in SUMA」に、社員有志とその家族20数人が参加しました。

この活動では、須磨海岸のごみを拾うだけでなく、集めたごみの

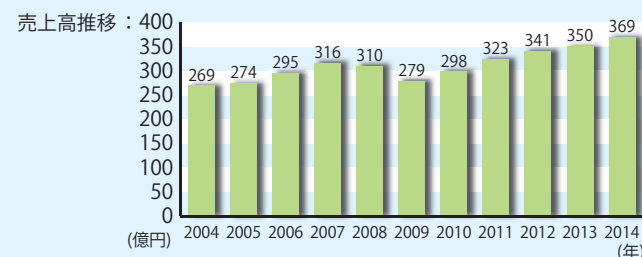


種類を分析して国や自治体のごみ減量への取り組みの効果検証や漂着ごみの状況把握も行われています。



会社プロフィール

会社名称：コベルシステム株式会社
創立：1983年10月1日
(神鋼コンピュータシステム株式会社として発足)
設立：1987年7月1日(コベルシステム株式会社に商号変更)
代表者：代表取締役社長 川瀬 俊治
株主：日本アイ・ピー・エム株式会社 51%
株式会社神戸製鋼所 49%
資本金：4億円
社員数：1,038人(2015年1月1日現在)
関連会社：コベルソフトサービス株式会社
本社：〒657-0845
神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号(シマブンビル)
URL：http://www.kobelcosys.co.jp/
売上高：369億円(2014年度)



事業所：



沿革

2014年：SAP導入テンプレート「Hi-KORT」のクラウドサービス開始
本社「近畿ニューオフィスコミュニティ賞」受賞
ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)永年登録表彰
2013年：本社移転
「プライバシーマーク制度貢献事業者」として表彰
2012年：営業部を統合し、営業本部を設置
2011年：中国・北京で開催された「SAPPHIRE NOW in Beijing」に出展
2010年：クラウドサービスセンター設立
「いい匂いのするITソリューション」ダイヤモンド社から発刊
2009年：次世代育成支援対策推進法認定マーク(くるみん)取得
「秘伝のタレ®」「秘伝のワザ®」を商標登録
2007年：全国企業品質賞にて大賞受賞(栃木県経営品質協議会主催)
2006年：東京事業所を東京本社と改称
全国企業品質賞にて最優秀賞受賞(栃木県経営品質協議会主催)
2005年：AMS®センター開設
2004年：IPセントレックス・IPコミュニケーション事業に進出
2003年：ISMS認証取得
2002年：アウトソーシング事業を強化 日本IBMの資本参加
2000年：プライバシーマーク(個人情報保護)の認定取得
1999年：ASP事業の本格的な展開を開始
ISO9001認証取得

※AMS: Application Management Service
SAP社のERPパッケージをベースとした基幹システムの、本番稼働後の安定稼働や運用技術支援、業務の定着化を支援するサービス

取得済の認証・認定

たいはつします 20000795(08)
子育てサポートしています 2015-12-09 年認定事業者
CERTIFIED MANAGEMENT SYSTEM JQA-3022 QUALITY SYSTEM
JSA ISO 27001
ISMS ISO 27001
ISMS ISR006

■ISO9001適用部署:
営業本部・ERPソリューション本部・インダストリーソリューション本部・SO本部製造システム部・ICT本部
■登録活動範囲:
製造業、流通業及びその他の産業向け顧客要求事項に基づくソフトウェアの設計・開発・製造及び付帯サービス(教育、移行支援及び瑕疵対応)

■登録範囲:
ハウジングサービス、インフラ運用管理サービス及びソリューションサービスにかかわる情報資産のセキュリティを保護するための情報セキュリティマネジメントシステム

編集後記

本レポートを最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。それぞれの分野の担当者が、できる限りわかりやすくお伝えすることを心がけて執筆しました。加えて、内容をご理解いただきやすくするために図や写真を多用し、社員の声を数多く記載させていただきました。コベルシステムのCSR活動へのご理解が深まり、親近感を覚えていただけるよう願っています。今後もさらにCSR活動を強化し、ステークホルダーの皆様と「ともに」の姿勢を貫いていきます。なお、お読みになったの忌憚のないご意見や感想をお送りいただけましたら幸いです。

Webアンケート入力画面 <https://www.kobelcosys.co.jp/csr/questionnaire/form.php>

本レポートの内容に関するご意見、お問い合わせは下記で承っています。
コベルシステム株式会社 経営企画部 CS・CSR推進グループ
〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 シマブンビル 10F
TEL: 078-261-6001 FAX: 078-261-7520